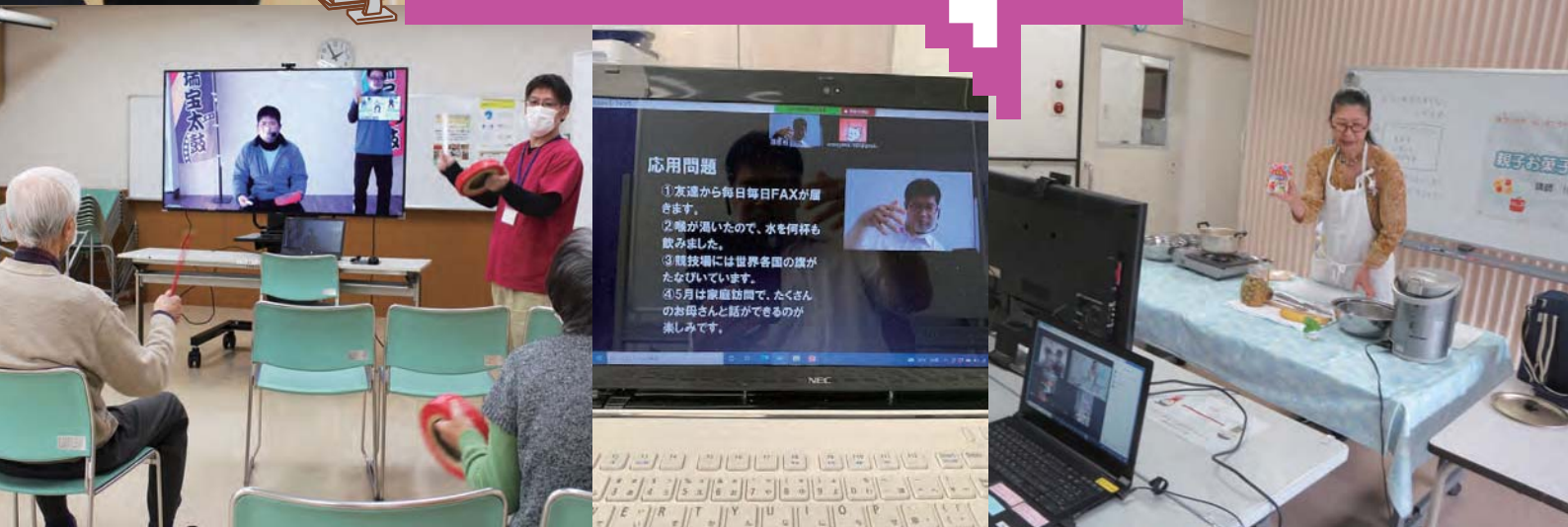




ココロ・ツナグ・オンライン

～ツナギたい、ツナガりたい、今だから～



昨今、オンライン会議が目覚ましく普及しました。このオンライン会議システムは、言わばテレビ電話です。今回は、このシステムを使って利用者へ提供しているサービスを紹介します。

ぴあすまいる東センター（東区若宮ノ平成25年開設ノ身障協会運営ノ阿部矢都子施設長）重度の障がい者（児）を対象に、生活介護・短期入所・日中一時支援を展開。一日の平均利用人数は17・8名（平均障がい者程度区分は5・78）。令和2（2020）年10月、週2回火・金曜日の午後、オンライン活動を開始。その内容は「絵本等の読み聞かせ」「すごろく」「ポッチャ」「花火」「アロママッサージ」「七夕飾り」等多様多様で、日頃生活介護で実施している活動をオンライン活動用にアレンジし、在宅の利用者へのサービスを提供している。

西障がい者フレンドホーム（西区内浜ノ平成14年開設ノ野の花学園運営ノ是本章吾施設長）フレンドホームは、障がい児者を対象として文化教室、余暇活動、浴室利用等を提供している。令和3（2021）年6月から長崎県雲仙市の（社福）南高愛隣会とオンラインを繋ぎ「瑞宝太鼓教室」を開講。毎月1回第1火曜日13時30分～15時30分実施。現在受講者5名。（※受講者募集中）



スタッフの高橋さんと吉村さん

ご自宅に居るご利用者の様子がうかがえ、ご家族とお話しできるところが良い!

今回は、ぴあすまいる東センタースタッフの高橋奈々さんと吉村茉那さんのお二人からオンライン活動についてお聞きしました。

オンライン活動のきっかけは?

吉村 以前からインフルエンザが流行する時期に、感染症予防でお休みされていたご利用者がいました。コロナの流行で更に会えない日々が続き、職員の「テレビ電話できないかな?」という発言がきっかけで、オンライン活動が始まりました。

どんな活動をしていますか?

また、実際にやってみてどうですか?

高橋 レクリエーションや創作活動のほか、アロママッサージや絵本の読み聞かせなどをしています。例えば、アロママッサージは事前にアロマオイルをご自宅へ届けて、活動時間にお母様に手伝って頂きながら、施設のご利用者と一緒にマッサージしています。オンライン活動の当初は、ご家族・スタッフ共に戸惑うことがありましたが、お互い徐々に慣れていきました。

吉村 創作活動でも、材料を事前にお届けてオンライン中に一緒に作ります。出来上がった作品を受け取りに行つて施設に飾ります。夏には七夕飾りも一緒にしました。今日は一緒にポッチャをします。投げる時は、画面の向こうからの掛け声に合わせてボールを投げます。

高橋 ご利用者の表情や様子が見えるので、まるで同じ空間に居るようです。また、オンライン活動は、事前にご家族に届ける材料等がありますから計画的に準備します。ご利用者のご家族がそれを楽しんで下さると嬉しいです。

吉村 ご家族とゆつくりお話しができる場所も良いです。昔の話や写真を見せて下さったり、普段ではうかがえないことを教えてもらっています。

高橋 私は去年異動して来たため、お二人のご利用者のうち、お一人とはまだお会いできていないので、早く平常の利用がはじまり、直接お会いしたいなと思っています。

吉村 今後はオンラインで楽しめる内容をもっと増やして、ご利用者にもっと楽しんで頂けるよう、取り組んでいきたいです。

オンライン活動に参加している、お二家族にもうかがいました。

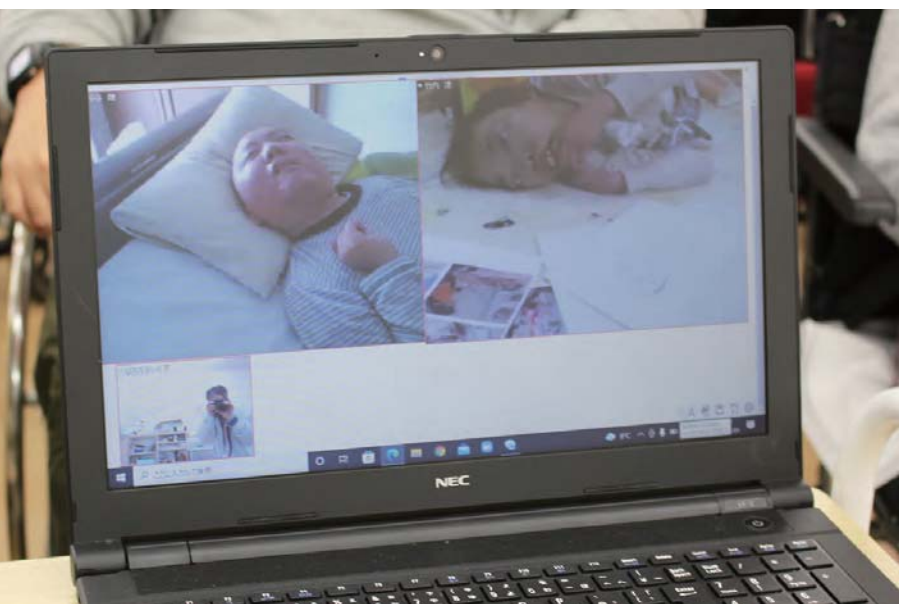
竹内涼さん(母) インフルエンザ等が流行る時は、生活介護を休んでいましたが、オンラインで参加できるようになったことで、子供がストレスを発散できているようです。機嫌が良いです。

柏谷陵さん(母) 家にずっといると、ダラダラ過ごしがちですが、週2回の生活介護のオンライン活動で、聞こえてくる活動の様子が刺激になっていくようです。母子共にメリハリが付いて良いです。

阿部施設長からもお話をお聞きしました。

オンライン活動は如何ですか?

阿部 コロナ禍以前からインフルエンザの流行る秋頃から5〜6月頃までの半年間は感染予防のため、毎年お休みされるご利用者がいました。



それに加え、2年前に発生した新型コロナウイルスのため、全く施設を利用できなくなりました。お母さまからの「ストレスからか、気切チューブを抜いて困っています」というお声を受けました。その頃法人本部がオンライン会議を導入し、遠隔で会議に出席できるようになりましたので、これを使えないかと思いました。

オンライン活動で気を付けていることは何ですか？

阿部 活動を映すだけでなく、どの角度で撮るとご利用者にとって良いかなど、カメラワークと声掛けの工夫です。特に気を付けている点は、みんなと一緒にいるような雰囲気作りを心掛けています。施設で行っている活動を「ご家庭に持つていく」という思いです。花火もしました。事前にご家庭に花火を持って行って、昼間の花火をしました。(笑)

オンライン活動のメリットとデメリットは？

阿部 以前は、インフルエンザが流行っている時期は、休むご利用者がありました。でもオンライン活動ができる今、ご自宅に居ながら参加できることが分かりました。このことから、「できないことってない」と思いました。また、活動内容が広がりましたし、職員のスキルも上がりました。ただ、通信環境が

オンラインで参加するご利用者

整わないご家族への対応がこれからの課題です。今は感染の状況からオンライン活動を行っています。ですが、一日も早く収束し、ぴあすまいるで一緒に活動ができる日を楽しみにしています。

オンライン講座「瑞宝太鼓教室」

西フレンドホーム 毎月第一火曜日午後1時～3時

もともと瑞宝太鼓は、昭和62(1987)年、知的障がい者の余暇サークルとして始まり、「プロになりたい」という強い願いから、平成13(2001)年、プロの和太鼓チームが結成されました。

現在、15名の団員で構成され、「希望し、努力し、感謝して生きる」をテーマに、日本全国各地、時には世界規模で出演の場を広げています。

瑞宝太鼓教室を指導しているのは、雲仙にある(社福)南高愛隣会です。このオンライン教室の開講にあたり、是木施設長は「お部屋の受講者の声をきちんと拾うマイクと、きれいな映像を映し出すカメラを導入しました。受講者が練習している手作りの太鼓(パーランクー)とパチは、長崎から送って下さいました。」

講師の瑞宝太鼓の団員とスタッフは、画面の向こうから、とても丁寧に分かり易い説明と、オンラインならではのタイムラグを上手に織り込みながら講座をリードしていました。是木施設長も盛り上げてあり、受講者がとても楽しそうでした。



パーランクーを使って練習する受講者

